会　議　録

会議の名称	令和８年度　第１回　飯塚市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和８年 10 月 20 日（火）14：00　～　15：40
開催場所	飯塚市役所　穂波庁舎　２階　202 会議室
出席委員	馬奈木委員、河委員、鳥越委員、青柳委員、家入委員、入江委員
欠席委員	麻生委員、佐藤委員
事務局職員	石田愼二企業管理者、上野恭裕企業局次長、手柴弘美企業管理課長、永末良一上水道課長、西岡真結下水道課長、青柳弘光上水道課長補佐、渡邊勉上水道課長補佐、大谷剛下水道課長補佐、本松克俊企業管理課長補佐、生山真希企業管理課財務係長、髙橋秀太企業管理課経営係主任
会議内容	議題１　令和７年度水道事業等の決算について 議題２　経営戦略の進捗管理について 報告１　水道料金及び下水道使用料の改定時期の方向性について 報告２　飯塚市うぐいす台団地汚水処理事業への地方公営企業法適用について その他
会議資料	資料-1　「令和７年度企業局の決算について」及び参考資料 資料-2　令和７年度飯塚市公営企業会計決算書 資料-3　令和７年度飯塚市公営企業会計決算資料 資料-4　「経営戦略進捗状況報告書（水道事業）」及び参考資料 資料-5　「経営戦略進捗状況報告書（下水道事業）」及び参考資料 資料-6　「水道料金及び下水道使用料の改定時期の方向性について」及び参考資料 資料-7　「飯塚市うぐいす台団地汚水処理事業への地方公営企業法適用について」 資料-8　久保白ダムの貯水率について
公開・非公開の別	[1　公開]　2　一部公開　3　非公開 （傍聴者　０人）
その他	

会議内容	1　議事 (1)　令和 7 年度水道事業等の決算について ○事務局より各事業（上水、工水、下水）について、資料 1～3 を用いて説明 ●水道事業 意見等なし ●工業用水道事業 意見等なし ●下水道事業 意見等なし (2)　経営戦略の進捗管理について ○事務局より各事業（上水、下水）について、資料 4～5 を用いて説明 ●水道事業 （委　員）有収率について前年比でもあまりよくないとのことで、断水防止のために主管の更新をしたけど改善しなかったということは、枝線で漏水しているということか。 （事務局）以前までは漏水が多い箇所を更新していたが、近年は災害時の大規模断水を防ぐため、重要給水管路を優先的に更新している。結果として更新延長は短くなり、有収率の向上には至っていない状況である。 （委　員）去年も申し上げたが、作った水が 100%届くとは思っていないものの、有収率の全国平均が 9 割に近い数字なので、飯塚市のこの現状は問題として受け取っていただきたい。都市部と山間部で効率性の違いもあるので、可視化できればいいなと思うが。 （事務局）有収率が低い地域を中心に漏水調査等を実施しようと考えているが、漏水箇所を探し切れていないのが現状。例えば道路上に水が溢れている場合等は分かり易いが、地表に出ていない、地中での漏水は人工衛星等の技術に頼りながら探していくしかないという状況である。 （委　員）重要な管路の更新を先に進めているとのことだが、これらの更新はいつくらいに終わる見通しなのか。

	(事務局)現時点では老朽化に更新スピードが追いついていない。逆であればどこかの時点で更新が終わることになるが、現状では明確な時期の見通しは立っていない。 (管理者)大規模断水を起こさないために大規模管路の更新を優先しているが、計算上いつ完了するのかというところは不明であるというのが現状である。3 月に改定した新しい経営戦略では、管路の更新目標を新たに 12 億円と設定し、更新スピードを上げていくこととしているため、有収率も向上するものと思われる。数値で示せるような工夫を今後検討したい。 ●下水道事業 意見等なし 2　報告事項 (1)　水道料金及び下水道使用料の改定時期の方向性について ○事務局より、資料 6 を用いて説明 (委　員) 昨年度の議論の際、将来に負担を先送りしたくないとの意見もあり、感銘を受けた。しかし物価高騰で生活苦となっていることも事実。それで今回のような苦渋の選択になったと思うが、改定が先送りになることで発生する影響は。 (事務局)新たな経営目標等を達成する場合、現状の料金水準では令和 10 年度に赤字となることが経営戦略上示されている。料金改定の先倒しについて改めて経営面での試算を行ったところ、改定の時期を一定期間先延ばししても各種経営目標が達成でき、将来の負担にもそこまでの影響が出ない見込みとなっている。ただし、当初の推計よりも資金残高が多少減少するという影響はある。 (委　員) 我々もかなりの覚悟をもって改定率を決定した。物価高騰も理解はできるが、それをも超越した意見だったと認識しているなかで、料金改定が先送りされたことは残念ではある。 (管理者)答申をいただいたあとに改めて企業局として検討した時に、市長部局において物価高対策を行っている状況をみると、企業局としては速やかに改定を進めたいという気持ちはあったが、市

	全体として考えたときに少しとどまって、将来負担への影響も含め改めて試算した。その結果、5年も6年も先送りすることは難しいが、少しなら耐えられるという結果となったので、企業局としては改定を先延ばしにするという判断になった。 （委　員）物価上昇は今後もしばらくは続くと思うが、急な物価高に慣れる期間という意味であれば今回の先送りも理解できなくはない。数字の話ばかりで恐縮だが、物価高の影響についてはどのようなもので判断されたのか。明確な数字等、目に見える形での判断基準はあるのか。 （管理者）市民生活に関する物価上昇に対する数字は把握していない。飯塚市としても物価高対策を実施している最中の 6 月議会に、市民の負担増になる料金改定の議案を出しづらくなったというのも正直なところ。先程も申し上げたが、再度試算した結果少し猶予がありそうなので、有収率向上や耐震化は喫緊の課題であるので、これらを実施したうえで少し猶予があるという結果なので、財政目標等を達成できないと判断される時点で料金改定を実施したいと考えている。 （委　員）改定時期を後ろ倒しにする猶予があるとのことだが、この期間中に老朽化に更新スピードが追いつくのか。飯塚市で事業経営を行っているわけで、全国平均と一概に比較することは難しく、飯塚市に合っているのかどうかが気になる。 （管理者）老朽化の状況は全国でみてもあまりよろしくない状況。これがあと1～2年で改善されるということも難しい。新しい経営戦略では更新のスピードアップを図っていくということで年間12億円を投資する目標を立てているが、改定時期を後ろ倒ししてもその目標は達成できるという見込みで、それを踏まえても時期的な余裕があるという状況。更新スピードが遅いという点は重々承知している。 （委　員）更新スピードを老朽化に追いつかせることができない原因は、人の問題か、それとも業者か、お金か、それとも全部か。 （管理者）足りないのはお金と人員体制である。市内事業者の体制も足りない。投資目標は現体制下でできる想定で組み立てており、更

	新は追いつかないが、災害時の大規模断水を防ぐために重要給水管路から優先的に更新を行うということで、効率的、効果的な更新及び耐震化をやっていこうというのが経営戦略上の目標である。 (委員長)イメージとして、経営として余力があるというよりも、新しい経営戦略上の目標でやっていけるから改定を先延ばしするよと。いずれ値上げはする必要があるが、物価高騰下で、上下水道がこの時期に料金を上げるというのはどうかという考えであると理解している。 (2)　飯塚市うぐいす台団地汚水処理事業への地方公営企業法適用について 〇事務局より、資料7を用いて説明 意見等なし 3 その他 〇事務局より、資料8を用いて説明 (委　員) 貯水率が何%になったら節水を呼び掛けるというような基準はあるのか。 (事務局)時期によって変わるが、今の時期だと農業用水としての使用量が少なく、ほぼ水道用水として使用できるため節水を呼び掛けることは無いが、仮に6月や7月にこの割合であった場合かなり危険な状況であるため、その時は呼び掛けることになると思う。基準は時期等により判断している。 〇次回の開催日程について調整 以上